
死体コレクター 2

エビのしっぽ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死体コレクター 2

【Nコード】

N9635A

【作者名】

エビのしっぽ

【あらすじ】

…僕は『趣味』には、『こだわり』が重要だ、と考えている。そう。どんな『趣味』であっても。

（前書き）

書いちゃいました。続編（笑）。しかもまだ続きそうですね。1から順に読んでいただけると、感無量です。

…ここ最近、僕は、とても不満足の日々を過ごしている。その原因はほかでもない、僕の『趣味』のことだ。

…数週間前、僕のコレクションに『十一体目』が加わった時だった。僕はいつものように、並べたコレクションを満足気に眺めていた。だが、すぐにおかしいと考え直した。それが何かわかるまで僕は『それら』を擬視していた。そして、気付いた。

(同じだ…)

それは、『四体目』と、『十体目』だった。全く同じだ…。僕は思った。

同じ、というのは顔、 姿形という意味ではない。

感じ、そう。感じた。たとえ、ほかの人が

「違う人間だ」

と言おうが、遺伝子が違おうが、そんなこと、知ったことではない。同じ『もの』は同じなのだ。

同じ『もの』がいくら増えようが、もう持っている『もの』は、僕には必要ない。

そう。それは、カードゲーム好きの小学生の男の子が、

「これ、もう持ってるからいらない。」

と、同じレアカードを欲しがらない感じに似ている。

同じ『もの』は、いらない。しかし、せっかく手に入れたのに捨てるのも…な…。

(…どうするか。)

もう、陽が沈んだ海を眺めながら、僕は考えを巡らせる。

夜の海。なんの光も差し込まない、広大な闇。どこまでも果てがない。あの中へ沈んでいけば、どんな感じなんだろうか。冷たく、暗く、そして、深い。

想像してみる。

悪くない。

むしろ、良い。

おっと、今はやめておこう。今は、『趣味』のことを考えなければ。結局、僕は『ハズレ』を焼却処分することにした。

解体して、保存しようかとも考えてみたが、僕は、『ハズレ』に愛情を注ぐつもりは全くない。ほったらかして、ホコリでもかぶるのが目に浮かぶ。解体した手足にカビが生えている姿を想像する。まったく、醜悪だ。

翌朝、僕は自宅のバルコニーにいた。

解体しておいた『ハズレ』を、ドラム缶の中にまとめて入れた。灯油をかけて、ライターを手に取る。

…一瞬躊躇したあと、上に被せた新聞紙に火を放った。
予想より大きな火柱に多少驚いたが、そんなことは、すぐにどうでもよくなった。

…臭い。吐き気をもよおすような、ひどい匂いだった。

…次は気をつけよう。

赤い炎と黒い煙を眺めながら、僕は思った。

…同日、昼さがり。

今年はまた、暑い。こんな日は、死体がすぐに腐るな…。
そんなことを考えながら、僕は歩く。

『ハズレ』のことを教訓に、今度からは、女をよく見極めよう。

僕の『趣味』は、徐々に、洗練されつつある。少しずつだが、
研ぎ澄まされている。

最終的に、僕は最高のコレクターになるのだ。

それはまだ、ずっと先なのだろう。

しかし…、いつか、きっといつか、必ず実現する……。

炎天下の歩道を歩く。

女性とすれ違う。その瞬間に、顔を見る。

僕はUターンしてその女性をつける。

『十二体目』となるであろう、その女を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9635a/>

死体コレクター 2

2010年11月12日11時22分発行